

テーマは「消化器病診療の未来を見据えて九州からの新たな提言」とし、消化器病の診療、消化器内視鏡の最新の診断・治療について、これからの方向性を検討致しました。

特別講演は青森県立中央病院長（元国立がんセンター東病院長）吉田茂昭先生に、「日本文化と消化器内視鏡」国際化への展望の講演を賜りました。X線二重造影法と胃カメラに始まり、拡大内視鏡に至る世界一精密な内視鏡診断学や内視鏡治療の歩みと、今後のグローバル化への課題について講演頂きました。教育講演は国立がんセンター中央病院の関口正宇先生に「日本の大腸がん検診の課題」費用対効果分析有効性評価の話題の講演を賜りました。日本では大腸癌検診制度があるにもかかわらず、高い大腸癌罹患率や死亡率が問題となっております。費用対効果分析の観点からどのような検診やサーベイランスが最も有効かについて講演頂きました。

二つのシンポジウムでは①「胃癌・大腸癌死亡ゼロを目指して」②「内視鏡的粘膜下層剥離術の困難例の克服」をテーマとしました。シンポジウム①では適切な検診やサーベイランスのあり方について、シンポジウム②では早期癌に対する内視鏡治療困難例に対するデバイスの開発や手技の工夫について討議されました。また、パネルディスカッションは「胆・膵癌の病理検査と現状と課題」のテーマ

で超音波内視鏡下吸引細胞診（EUS-FNA）を用いた術前病理診断の有用性やその是非を巡り討議が行われました。ワークショップは「緊急内視鏡検査の現状と課題」のテーマで、消化管出血やERCP関連手技を中心に討議されました。

さらに同仁堂ホールにおいて、最近注目を集めている内視鏡的粘膜下層剥離術のハンズオンセミナーを開催しました。講師に埼玉医科大学の野中康一准教授をお招きし、多くの若手医師で会場は熱気に包まれ大変好評でした。熊本震災で一時開催が危ぶまりましたが、三〇〇題を超える演題が集まりました。学会期間中は天候にも恵まれ、会場は千名を超える参加者で盛会となりました。皆様にはご支援、ご指導を賜り、無事に会を終えることができました。この場を借りて心より感謝申し上げます。本学会での知見が少しでも臨床の発展に貢献できれば幸いです。

平成二十八年度熊大病院群卒後臨床研修プログラム研修医育成報告

熊本大学医学部附属病院総合臨床研修センター長 向山 政志

平素より熊大病院群卒後臨床研修プログラムの研修医の指導・育成にご協力頂き、誠に有難うございます。

平成二十八年度は、四月の熊本地震か

ら始まりました。二度の激震という未曾有の事態に対応された医療関係者の方々は、同時に被災された側でもあったことと、心よりお見舞い申し上げます。県内の初期臨床研修体制にも大きな影響があり、被害の大きい地域の研修病院では日常診療が一変し、その対応に研修医も医療者の一員として加わることになりました。また、研修基幹病院である熊本市市民病院の被害は大きく、研修中断を余儀なくされる事態となりました。四月の研修開始から二週間あまりでの事態で、関係者のご苦労と所属研修医の不安も察して余りあるものだったと思います。

熊本大学では四月に医科合計七十九名で研修をスタートしましたが、この内六名が熊本市市民病院研修中で、さらに二名が市民病院での研修を予定しており、彼らの研修計画の変更にも迫られました。また、市民病院基幹型の研修医は病棟の閉鎖に伴い、研修継続が困難となりました。中断による研修の遅れを最小限に留めるように市民病院指導医の方々と相談し、熊大病院と協力病院群で速やかに支援体制を整える方向に動き、研修管理委員会承認されました。その際、自施設の対応に追われる中で早期に研修医受け入れを表明していた、関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。

その後本人の希望を元に、熊大病院では熊本市市民病院から六名の研修医を受け入れ、遅滞なく研修を再開することがで

きました。最終的には一年次四十一名、二年次四十三名、及び歯科九名の合計九十三名の研修医が当センターに所属して研修を行いました。この研修医たちも、震災後の復興に尽力し、お役に立てたのではないかと思います。また、恐らく彼らの中で忘れられない医療の原体験の一つになったはずです。

激動の一年でしたが、無事に研修が継続できましたことを、熊本県、大学病院関連施設の皆様方のご協力に感謝するとともに、今後とも公益財団法人肥後医育振興会の御支援、ご指導の程をよろしくお願い申し上げます。

第十六回熊本大学医学部医学科医学教育FDワークショップを開催して

熊本大学医学部医学科長 尾池 雄一
第十六回熊本大学医学部医学科医学教育FDワークショップは、震災の影響もまだ残る二〇一六年十月八日曜日、職員と学生合計四十五名の参加を得て、熊本大学臨床医学教育研究センターにおいて開催されました。

二〇〇〇年度に第一回の医学教育FDワークショップが開催されて以来、本ワークショップは毎年開催され、本学医学科の教育カリキュラムや医学科教員の教育能力の向上に寄与してきました。特にここ二、三年の医学教育FDワーク